

高粱知るぷぷれ



エド

知るぷぷれは「高粱を知る」と「シルブプレ」(フランス語で「よろしければ」)をかけた言葉です

日本に森林が多いのは当たり前で自然なことだと思っていました。が、実は現在ある森林の40%くらいは人工な



森が生きるには人の力が必要です。たとえお金にならなくても、土砂災害を予防し、水やCO2を吸収する役割を担う美しい森を、行政と市民が共同で守る責任があるのだと感じます。

今回は、松山の「高粱 美しい森」で「森の健康診断」と間伐作業に参加し、人間と森林の絆を強めようと活動するNPO「フォレストフォーピープル(FFP)岡山」代表理事の山下武伺(たけし)さんに話を聞きました。

森が、公害などではなく、人間に疎かにされたことで病気になっているなんて知っていましたか？ 私は子供のころ、「ランドの森」や「ロワール川沿いの森」を歩いたとき、その繁茂(はんも)している森が、「豊富」ではなく「過剰」かもしれないと考えたこと一度もありませんでした。

日本の森林は、17世紀末の木材需要にともなう大量伐採によって全て破壊されるおそれがあったものの、その頃に登場したプロの植林者が持続性を考慮するようになったり、地域協働で再生されたりして守られてきました。しかし20世紀の後半、高度経済成長期に木材が輸入されるようになると、かつて大量に植えられた国内の杉とヒノキは放置されたのです。

森が生きるには人の力が必要で



知識と経験が豊富な山下さん。「山を守るにはお金よりも人。ボランティアさんを募集しています」とのこと。



今回の作業に参加したFFP岡山とボランティアの皆さん。年間を通してイベントを開催しています。詳しい内容はホームページやフェイスブックページで。

キラキラきらめく⑩

泉 佑奈さん

いずみ ゆな 21歳 横町

生まれ育ちは備中町平川。離れて暮らす今も家族、地域の皆さんと仲良しという佑奈さんです。

人見知りで1人遊びが好きだった幼少期、児童数が少なく学校のみんなが仲良しだった小学時代、部活動の卓球に打ち込んだ中学時代、勉強や学校行事に生来の負けず嫌いを発揮した高校時代を経て、子供の頃からの夢だったパティシエとしてがんばっています。

自らを「コツコツタイプ」と言うように、目の前のことをひとつずつ達成していきたいと話しながらも、「いろんなことにチャレンジしたい」とも。

「家族、地域、友人など、自分の支えが近くにあるところで暮らしたいので、結婚しても高粱に住んで、父と母のような夫婦になりたいです」と話し、にっこりと笑顔を見せました。

